

地球温暖化など環境問題に関する教育に積極的に取り組む東京都市大学等々力中学校（世田谷区）は、教育機関として初めて、環境省のカーボン・オフセット認証を取得し

た。環境について生徒に考えさせようと、外部講師による環境講座を実施したり、校舎使用の際に出る二酸化炭素（CO₂）の排出権を購入したりしている。（小形佳奈）

東京都市大等々力中 教育機関初の認証取得

校舎のCO₂排出権を購入

将来に生かせ

環境教育実践



「日常生活でも必ずCO₂が発生します」。二年生百四十九人を対象にした環境講座が十七日に開かれた。講師の説明後、生徒たちは学校の電気、ガス、水や水道を「まめに止め

道の使用量から一日に算。排出量を減らすために何ができるか考ら来年二月まで、十三回の講座を受ける。講師は東京都市大（旧武蔵工業大）の卒業生や

在生でつくる団体「eisa（エルサ）」。気候変動の仕組みを学んだり、弁当や携帯電話を例に、材料調達から廃棄までの過程すべてに環境負荷がかかることを教わったりする。

温室効果ガスの削減活動などに投資して、自分たちが排出するCO₂の埋め合わせをするカーボン・オフセットについても触れる。生徒たちに当事者意識を持つてもらおうと、十三回の講座開催日に排出されるCO₂量二十三分の排出権を学校が購入。その費用は被災地の森林保全と貧困国の生活向上支援に充てられる。

一連の取り組みを環境省のカーボン・オフセット制度に申請したところ、十月一日に認証された。同省の担当者は「これまで企業からの申請が多く、学校は例がない」と話す。学年主任の樋口久仁教諭は「温室効果ガス、カーボン・オフセットなど、今は理解できなくても、用語を覚えておけば将来役に立つはず」と期待を寄せる。

グループに分かれ「環境」授業を受ける生徒たち（世田谷区で）